

広
報
T E N S H I - H O S P I T A L

天使びょういん

秋号
2018
OCT
vol.50



タイトル:「16歳(人間年齢83歳)柴犬・おはな 今日も幸せ!!」 撮影:飼い主の天使病院のある職員


INDEX

- p2-3 Scope「医事課」
- p4 Inside hospital「糖尿病・代謝内科」
- p5 特集「地域のきずな」
- p6 シリーズ「天使病院の天使たち」
- p7 健康レシピ「がん予防のレシピ」
- p8 お知らせ



医事課

~Medical Division~

今回ご紹介する「医事課」は病院特有のもので聞き慣れない名称かもしれませんが、「医療事務」と言えばご存知の方も多いのではないでしょうか。皆さんとは受付や会計などの窓口を通して接する機会が多い部署ですが、それ以外にも医事統計や国(厚生労働省)へのデータ提出など重要な役割を担っています。病院によって医事課の担う役割にも違いがあるなど複雑ですが、その一端でもご紹介したいと思います。今回は医事課の2人に具体的な業務内容や仕事への思い、やりがいについて聞いてみました。



インタビュー
T: 飛山(看護師)



インタビュー
S: 斉藤(薬剤師)



Ku: 熊谷
(医事課係長)



Ka: 川村
(医事課事務員)

T: それではまず、仕事内容について教えてください。

Ku: 医事課の中心的な仕事は、医療費の「請求業務」です。これは私たちの仕事の大部分を占めているもので、患者さんにお支払いいただく医療費を算定しご請求すること、そして保険制度から支払われる医療費の一部(診療報酬)を算定し「社会保険診療報酬支払基金」(以下、支払基金)と「国民健康保険団体連合会」(以下、連合会)に請求することがその主な内容です。支払基金・連合会への請求は診療報酬明細書(レセプト)という形で翌月の10日までに完了することが決められていて、毎月1~10日は医事課にとって忙しい期間となります。それは、お正月やゴールデンウィークも同じです。その他にも、乳がん検診や子宮がん検診など、市が助成する検診費用の請求なども行っています。

T: 請求業務以外にも様々な仕事があると聞きましたが、具体的には?

Ku: まずは「窓口業務」が中心です。外来での新患、再来の受付や各科外来での受付や会計、さらには入院受付まで、窓口業務は全般的に

医事課の仕事です。また、患者さんからお預かりした生命保険文書のやり取りなども行っています。これらは外来業務と言いますが、実際にはニチイ学館(以下、ニチイ)に委託して役割を担ってもらっています。

Ka: また、入院患者さんに関わる業務を入院業務と言います。入院業務では入院費の請求以外にDPCデータの作成と分析を行っています。これは、当院がDPC(医療費の包括請求制度。入院患者さんの病状などをもとに、手術や処置など医療行為の有無に応じて定められた1日当たりの定額の点数をもとに医療費を計算する方法)対象病院となっているために必要な事項で、診療情報管理と連携して作成し、厚生局と厚生労働省に提出しています。全国のDPC対象病院から集まるこのデータは医療機関等の機能や役割を適切に分析・評価に活用され、今後の制度設計に関わるとても重要なデータなのです。

T: 患者さんにとってDPCの制度はわかりづらいのではないのでしょうか?

Ka: そうですね。きっとわかりづらいと思います。DPCに限らず、その他にもたくさんあると思います。診療明細書の内容についてや保険のこと、国や市町村の医療費補助など様々です。私たちはそのわかりづらいことをできるだけ患者さんにはわかりやすく説明することが大切な役目だと思っています。つねに“わかりやすく”を心がけています。

Ku: しかも、診療報酬は2年に1度改定されるためどんどん変化していきます。それに加え、保険の改定は都度あります。その変化にきちんと対応するためにも、常に医療制度に対する知識を更新していかなくてはなりません。そのためには日々勉強です。

T: 患者さんからの問い合わせも多いのでしょうか。

Ku: 例えば入院前に、「入院の医療費はいくらかかりますか」という問い合わせはよくあります。病気によっては費用が一定の場合もありますが、正直なところ検査内容や処置、使用する薬剤などが不明確な段階で医療費の概算をお伝えすることはとても難しいことです。できれば入院後少し時間が経過してから問い合わせください。お答えさせていただきます。

Ka: また、退院後にお支払いいただいた入院医療費の内容についてご不明な点があれば、早めに問い合わせください。



S: 医事課で働くには資格が必要なのではないでしょうか。

Ka: 取得の義務はありませんが、医療保険事務協会が実施している「診療報酬請求事務能力検定」という検定があり、当職員では複数名が取得しています。

Ku: 資格はありませんが医療制度だけでなく、病気や治療についての知識も不可欠なので、そのための勉強は必要です。医師や看護師、その他の専門職とのコミュニケーションにも不可欠ですし、正しい請求のためにもとても重

要です。

T: 仕事のやりがいについて教えてください。

Ku: 医療保険制度と診療報酬はどんどん複雑に変化しています。それに伴い、患者さんや職員からの問い合わせも多くなりますが、感謝の一言をいただいた時にやりがいを感じます。患者さんの何気ない一言が私たちの励みですね。

Ka: この仕事は一般事務とは異なり、医療職としての専門的な知識や経験が得られます。簡単な仕事ではないですが医療に興味をもっていらっしゃる方々にとっては、資格がなくとも携われる仕事です。もちろん多くの知識を必要としますが、診療報酬の請求の仕事を通して、間接的ですが病院の経営や社会に貢献できることがやりがいです。

S: 読者へメッセージをお願いします。

Ku: 複雑になる医療制度や保険に関する皆さんの疑問に、できる限りわかりやすくお答えできるように心がけていますのでわからないことがあればお気軽に医事課職員に声をかけてください。

Ka: 仕事の内容が見えにくい部署ではありますが、患者さんの医療費を計算したり、病院経営にかかわって来たりする重要な部門だと考えています。私たちの話が少しでも皆さんのお役に立てばうれしいです。



糖尿病・代謝内科

糖尿病の治療は、2000年頃を境に急速に進歩しました。新しく安全な薬・注射の出現、自宅で簡単に測れる血糖測定器や24時間血糖をモニターしてくれる機器の出現などです。天使病院内科に糖尿病内科が設立されたのが、2006年です。「メタボリック・シンドローム」という言葉が大ブームを起こしたのがこの年です。当科には3名の糖尿病専門医が常勤しております。また経験豊富な糖尿病専門看護師や栄養士がチームを組み、糖尿病からくる足の病気の管理や腎臓病を悪化させないための食事指導などに

当たっています。さらに当科だけの特徴は、産科と協力した妊婦さんの糖尿病管理です。普段は正常で、妊娠した時だけ糖尿病になる方でも、血糖の管理は赤ちゃんを安全に出産するためにとても重要です。糖尿病と並んで「脂質代謝異常」も当科の得意としている分野です。その中で特に「家族性高コレステロール血症」には、新しい治療法が誕生し画期的な治療効果が得られています。LDLコレステロールが高くて困っている方や家族に心筋梗塞などの動脈硬化が、多く見られる方々の相談に応じております。

ナビゲーター



糖尿病・代謝内科相談役 辻 昌宏先生 (Masahiro Tsuji)

■**経歴**：1977年秋田大学卒業。北海道大学第一内科入局。北海道社会保険中央病院(現JCHO北海道病院)、北海道大学医学部附属病院などを経て2007年より北海道医療大学病院長。2018年より天使病院糖尿病・代謝内科相談役。

■**資格**：日本内科学会 認定内科医、日本糖尿病学会 専門医・指導医、日本老年医学会 老年病専門医・指導医、日本医師会認定産業医

■辻先生の専門分野について

若年者から高齢者までの糖尿病患者さん全般を診ております。その中でも特に、糖尿病からくる動脈硬化の予防と治療を専門としております。数多くの患者さんから学んだ、食事療法・運動療法の失敗例や成功例を豊富に知っていることが、糖尿病患者さんを診る上でおおいに役立っています。

また脂質代謝異常の分野では、道内でトップクラスの診療実績があります。特に「家族性高コレステロール血症」の診断と治療では、国内で有数の実績を持っております。

■得意なことやメッセージなど

ストレスから一時90kg近くまで太ったことがあります。家の近くにある大きな公園を毎朝散歩するようになったのはその頃からで、始めてから15年くらいになります。食事療法も数々の失敗とリバウンドを経験しております。筋トレは、勧めた患者さんが、めきめきスリムになってゆくのを見てから、自分も始めました。禁煙は、数え切れないほどの挫折を繰り返してやっと成功したところです。私が勧める食事療法・運動療法・禁煙は、すべて私が効果を確かめたものです。

■辻先生ってこんな人(内科外来 森山主任より)

辻先生は「おはようございます」と挨拶で患者さんを診察室に迎えてくれます。しっかり向き合ってお話しされる姿がとても印象的です。個別性を大切に必要治療上のアドバイスを穏やかに優しく教えてくれます。ですから患者さんは安心して治療、通院ができます。また私たち、スタッフが困っているときも助けてくれますので頼りになり、信頼できる先生です。糖尿病だけではなく、「脂質代謝異常」のご専門なのでお困りの時はご相談されてはいかがでしょうか。

いしかわ たかひさ
院長 石川 隆久 先生

Profile

弘前大学医学部卒業(平成2年)、北海道大学第3内科入局。健康のために始めたウォーキングが徐々にマラソンへと発展。今では昼休みに10km走るのが習慣に。最近では遠くの駅の側にある温泉めぐりして走り、温泉にゆっくり浸かった後、JRで帰宅するというのがマイブーム。KITAKAとSAPICAは手放せないそう。

Q. 石川内科医院についてご紹介ください。

ここは父が昭和46年に石川内科小児科医院として開業しました。開院して今年で47年目になります。私が2003年(平成15年)に父から引き継ぎ石川内科医院となってからももう15年が経ったこととなります。医院を継承するという事は、患者さんはもちろん地域の医療機関との関係も引き継ぐということになります。当時、「いずれ継ぐにしてもまだ先のこと」と思っていた私にとって父の残してくれたものは非常に貴重で心強いものでした。天使病院のN先生も父の時代には当院に手伝いに来てくれていたのです。これもご縁ですね。

Q. 先生が心掛けていらっしゃることは?

この地域の方々と仲良くなることです。つまり、小さなことでも遠慮なく相談してもらえる関係でありたいと思っています。患者さんにとって病院で言いたいことを言うのは意外と難しいことです。特に大きな病院ならなおさらです。大きな病院を受診するように勧めても「いい、いい」と遠慮する方や、予約がなければ受診できないと思っている方もいらっしゃいます。患者さんの思いや状況をキャッチして、患者さんが適切な医療を受けられるように後押しすることが私の役割です。顔見知りだから言えることってあると思うのです。そういう地域に密着したかかりつけ医でありたいですね。

そのためにも、私自身が最新の医療情報を常にアップデートするようにしています。医院でできる医

療には限りがありますが、だからと言って“知らない”ではすみませんからね。

Q. 先生にとってやりがいは何ですか?

人の役に立てることですね。

最近、同窓会や同期会の機会が増えました。話題といえば、年齢的にも病気や健康のことも少なくありません。自然と健康相談を受けることが多くなりました。学生時代は目立たなかったのですが(笑)、医者であること、この地にずっといることで頼りにしてもらえるのはとてもうれしいものです。古くからの友人の役に立てる。これが最近、新たにやりがいの一つに加わりました。

Q. 今後の目標をお聞かせください。

東区は大きな病院や専門病院も多く環境が整っています。この恵まれた環境の中で近隣の病院との関係を大切にしながら、今のままできることを続けていきたいです。

Q. 天使病院との連携についてご要望などあればお聞かせください。

病院もきれいになり、ますますこの地域の中核病院として頑張っていたきたいです。今後も今までと変わらずよろしくお願ひします。

所在地: 千065-0023
札幌市東区北23条東9丁目1-27
電話: 011-751-2750
診療科目: 内科・消化器科
休診日: 土曜日午後、
日曜日、祝日

診療時間

外来受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
13:30~18:00	●	●	●	●	●	—



天使病院の天使たち!

看護学生さんは実習中、たくさん悩むことがあります。学生さんの実習環境を整え、学習のサポートをするのが臨地実習指導者の役割です。今回は実習体験の中で「看護する喜び」を感じてもらえるよう日々、奮闘している臨地実習指導者にそれぞれの思いなどについてお話ししてもらいました。



西7病棟 主任 大滝 有紀

西7病棟では、毎年看護学生を受け入れています。看護学実習では、臨地実習指導者が一緒に患者さんのケアにあたり、看護学生の成長を支援しています。私たち臨地実習指導者は、看護学生のやる気を高め、意欲を引き出し、主体的な行動が



取れる様な関わりをしたいと思っています。また、看護の喜びを伝えられる素敵な手本となれるよう私達も努力しています。病棟全体で看護学生を受け入れる環境を整えています。

少しでも天使病院が気になったあなた! 私たちと一緒に働いてみませんか(*^_^*)



西6病棟 主任 池田 彩美

私は西6病棟に勤務して11年目になります。実習指導者の経験は5年程度になります。

当病棟には癌の治療のため抗がん剤治療を受けている患者さんや、高齢者の患者さんがいらっやいます。私が実習指導者として大切にしていることは、そういった患者さんを受け持つことで学生の持つ力を引き伸ばしていくということです。学生さんの考えや、患者さんに対しての思いをよく聞き、実習で体験したことを、学生さんの知識と結びつけることが大切だと感じています。また指導者自身、看護観をしっかりと持ち、何を大切にしながら看護をしているか、学生に伝えることがとても大切だと日々感じながら実習指導に努めています。



産科病棟 坂本 直子

産科病棟 坂本 直子

産科病棟、産科外来では、看護師を目指して母子看護学を学ぶ看護学生と助産師を目指して助産学を専攻している助産学生が実習しています。産科病棟では産後の母子を受け持ち、分娩室では出産に立ち会い、周産期という特徴から、妊婦健



診や産後健診、乳児健診の実習は産科外来で行っています。

命を育む女性と新生児、そしてその家族との関わりを通して、生命の大切さや重さを感じ、思いやりの心を持って、臨地実習を実践してほしいと思います。

気になる栄養素を
おいしくとり入れる

食物繊維をおいしく補給 がんを予防する食事 レシピ

栗ご飯
鮭の黄身味噌焼き
南瓜の煮付け
大根のサラダ/フルーツ

たんぱく質 21.0g 脂質 13.0g
塩分 1.3g 食物繊維 6.3g
野菜の摂取量 130g(1日の摂取目標の37%)
果物の摂取量 50g(1日の摂取目標の50%)

1食あたり
512kcal

Comment 胃がんの発生には、喫煙や食生活などの生活習慣が深く関係しています。胃がんのリスクを高める食生活習慣として知られているのは、①塩分の濃い食べ物を食べ過ぎること。②野菜や果物の摂取不足。③熱い物、冷たい物を急に飲み込むことです。

- ①塩分の濃い食べ物は、胃粘膜を荒らしがんになるリスクが高くなります。
 - ②野菜や果物には、胃がん予防効果があるとされ、がんを抑制する成分が含まれています。野菜の中で注目するのが「大根」です。大根の食物繊維のリグニンには、がん細胞の発生を抑制する効果があるとされています。果物では、りんごに含まれるプロシアニジンが、がん細胞の活性化を抑制します。
 - ③熱い物、冷たい物を急に飲むなども胃粘膜を荒らすので、冷ましてから飲む、ゆっくり飲むようにしましょう。
- (管理栄養士 梅津千恵子)

栗ご飯

たんぱく質	3.9g	脂質	0.9g	1人分	216kcal
塩分	0.0g	食物繊維	1.7g		

- 【材料(1人分)】
- ・精白米 50g
 - ・栗(加熱済み) 20g
 - ・いりごま(白) 0.5g
 - ・清酒 0.5g

- 【作り方】
- ①通常のご飯を炊く水加減にし、清酒を加え、米の上に栗をのせ炊きあげます。
 - ②茶碗にご飯を盛り付け、いりごま(白)を振りかけます。

南瓜の煮付け

たんぱく質	1.3g	脂質	0.2g	1人分	63kcal
塩分	0.2g	食物繊維	2.1g		

- 【材料(1人分)】
- ・かぼちゃ 60g
 - ・砂糖 1.5g
 - ・減塩醤油 3g

- 【作り方】
- ①かぼちゃがかぶる程度の水を入れ、柔らかくなるまで煮る。
 - ②さとう、減塩醤油を加えて煮汁が半分くらいになるまで煮込む。

鮭の黄身味噌焼き

たんぱく質	14.3g	脂質	11.6g	1人分	184kcal
塩分	0.7g	食物繊維	1.2g		

- 【材料(1人分)】
- ・トラウトサーモン 60g
 - ・塩 0.1g
 - ・酒 1g
 - ・西京味噌 6g
 - ・卵黄 5g
 - ・みりん 1g
 - ・椎茸 10g
 - ・笹たけのこ 15g
 - ・塩 0.1g

- 【作り方】
- ①トラウトサーモンに振り塩をします。
 - ②酒、味噌、卵黄、みりんを混ぜ、①に塗り焼きます。
 - ③椎茸、笹たけのこに振り塩をし、素焼きにします。
 - ④皿にサーモンをのせ、付け合わせの椎茸と笹たけのこを飾る。

大根のサラダ

たんぱく質	1.4g	脂質	0.2g	1人分	20kcal
塩分	0.4g	食物繊維	0.6g		

- 【材料(1人分)】
- ・大根 30g
 - ・糸削り 1g
 - ・プチトマト 15g
 - ・ノンオイル和風ドレッシング 10g

- 【作り方】
- ①大根は千切りにし、水にさらしておきます。
 - ②器に水を切った大根にドレッシングをかけ、プチトマトをのせ、糸削りを飾る。

フルーツ

たんぱく質	0.1g	脂質	0.1g	1人分	29kcal
塩分	0.0g	食物繊維	0.7g		

- 【材料(1人分)】
- ・りんご 50g



POINT 計量スプーンによる調味料の目安重量

食品名	小さじ(5ml)	大さじ(15ml)
塩、減塩醤油、みりん	6g	18g
酒	5g	15g
さとう	3g	9g
いりごま	3g	9g
ノンオイルドレッシング	5g	15g

*メニュー&調理協力：エームサービス株式会社



鴛泊中学校3年生 職場体験レポート(8月24日)

利尻町立鴛泊中学校から前田さん、三上さん、山上さんが職場体験に来てくれました。

医療職への強い思いを持っている3人のご希望により、今回は看護師チームと管理栄養士チームに分かれて体験をしていただきました。白衣を着て病棟を歩く姿は、すでに看護師・栄養士そのものでした。



前田 空さん

初めは何をするのが看護師なのかという事を思いつつ、看護師の体験をさせてもらい、自分が思っていた看護師とは全然遠く、臨機応変に対応していかなくても、一人ではできなくても他の看護師とも協力してやっていくのが看護師なんだと改めて思いました。今回体験したことを忘れずに、将来にいかしていきたいと思います。



三上 桜乃さん

私は小さいころから「医療系のお仕事」に将来なりたいと思っていたので、今回、天使病院で職場体験をすることができ、とてもうれしかったです。普段見ることのできない病院の施設や看護師さんに話を聞くことができ、良い経験になったと思います。話を聞いた後、病院内を見てみると、来る前と視点が変わり、世界が広がりました。今回は職場体験をさせていただき、本当にありがとうございました。本当に感謝します。



山上 紗英さん

栄養科に行き、管理栄養士の仕事内容を見学させてもらいましたが、自分が想像していたのとは全く違っていました。栄養士だけではなく、他の部や科ともお互いサポートしながら仕事をしていてとてもカッコ良かったです。患者さんとのコミュニケーションも見えてすごく勉強になりました。

糖尿病予防教室 (基本毎月第3水曜日 14:00~15:00)

<天使ホールC>



本教室は、糖尿病の患者さんとそのご家族だけではなく、糖尿病に関心のある全ての方を対象とした教室です。予約は必要ありません。どうぞお気軽にご参加ください。

※(料理教室)事前の申し込みが必要です

日程	時間	テーマ	担当者
10月17日(水)	14:00~14:30	糖尿病と歯周病	糖尿病内科医師 辻 昌宏
	14:30~15:00	認知症の考え方と対応	西5看護師 三浦 里織
11月14日(水)	10:00~13:00	天使糖尿病DAY	
12月19日(水)	14:00~14:30	年末年始の食事の工夫	栄養科管理栄養士 佐伯 千佳
	14:30~15:00	心臓と糖尿病の深い関係	循環器医師 西里 仁男

広報誌 「天使びょういん」第50号
 発行日 平成30年10月15日
 発行人 院長 藤井ひとみ
 編集 「天使びょういん」編集委員会

編集後記

広報誌秋号、お楽しみいただけましたでしょうか？9月6日に北海道を襲った北海道胆振東部地震、被害にあわれた方へお見舞い申し上げます。今までにないこのような大きな地震を経験して、初めて備蓄の重要性、防災グッズの準備不足など、気づかされた点が多くありました。今後は防災意識を強くもち、行動することを心がけていきたいです。まだまだ、道内完全復旧とはなっておりませんので、節電や支援活動などできることに取り組みたいと思います。

